

三回 一時みづするゝノ大群集レルモ鱗ノ爲途ニ散逸セリ次イデがつん群火付セルモ靜調ノ見込ナク網ヲ投セルモ焚込及網成充分ナラズ不漁がつん五斤ヲ漁獲セリ

四回 火付惡シがつんノ小群寄レルモ靜調トナラズ游泳區域廣キ爲メ操網セルモ僅カ一〇斤

五回 火付全ク無クマシテ天候險惡トナリ中止

第二次

一夜 集魚閑シがつんヲ主トシ雜魚雜然トシテ寄ルモ靜調ノ見込ナク投網セルモ網成惡シク漁獲ナシ更ニ焚シツ、他へ轉錨セルモ火付ナシ

二夜 やまとみづん。もろ、あじノ小群寄レルモ網ヲ投入スル程ノ魚群ナラズ續イテ位置ヲ替へ焚火ス、上ニみづん。深部ニもろノ大群集來靜調ヲ待チ續ケテ二回操網セルモ焚込網成未熟ニテみづん三〇斤も二〇斤ノ漁ニ過ギス

三夜 深部ニ魚群ヲ認ムルモ浮上セズ次イデ場所ヲ替へ焚火ヲ續クもろノ大群集魚投網二回もろ三〇斤ノ漁アリシノミ

四夜 火付惡シク更ニ轉錨焚火ス
もろノ小群(五〇〇斤位) 寄り二回投網スレド潮流早ク操業意ノ如クナラズもろ五斤ヲ得シノミ

四、鯉餌料蓄養試驗

本試驗ハ場船ニテ鹿兒島縣ヨリ鯉餌料鱸ヲ運搬シ適當ノ處ニ蓄養シ之レヲ當業者ニ配給シテ縣外餌料ニ付試驗究ヲナスト共ニ本縣産餌料ニ付テモ同様ノ試驗ヲナシ以テ鯉漁業ノ振興ニ資セントスルモノニシテ之レガ經過、

概要次ノ如シ

本試験施行前豫メ當業者ノ意向並ニ希望等ニ付調査ノ要アルタメ左記ノ如ク事業計劃ヲ定メ全海區ヲ四區ニ分チ
テ蓄養配給セントセリ

記

事業計劃

時期 四、五月頃

運搬船 圖南丸

蓄養配給豫定場所

名護灣許田浦

慶良間阿護ノ浦

宮古池間

八重山船浮港

配給餌料數量 蓄養場所一ヶ所ニ圖南丸滿載一回分

配給船數 許田浦ニテ配給ヲ受ケルモノ(伊平屋、本部、垣花各一隻)

阿護浦ニテ配給ヲ受ケルモノ(渡嘉敷、渡名喜、座間味、久米島各一隻)

宮古池間ニテ配給ヲ受ケルモノ(池間、佐良濱、久松各一隻)

八重山船浮港ニテ配給ヲ受ケルモノ(石垣二隻、竹富、與那國各一隻)

管 理 蓄養配給ノ管理ハ地元水産會或ハ漁業組合ニテ試験場監督ノ下ニ行フ

配給方法 希望者中最近三ヶ年ニ於テ成績最モ優レタルモノヨリ順次一回ニ限ル

但シ大型船ヲ除ク

代 金 實費ノ程度

義 務 配給ヲ受ケタル漁船ハ漁期中月別(配給餌料使用中ハ特ニ詳細)ニ漁況ヲ報告セシム

右ノ内時期配給場所並ニ配給船ニ付テハ特ニ慎重ニ考慮相成度シ

右ノ如キ照會ニ賛成ノ意ヲ表セシハ座間味漁業組合ノミニシテ其他宮古、八重山等ハ四月末ニ至リ漸ク本場ノ
 劃案トハ稍距離遠キ申込ミニ接セリ

斯クシテ肝腎ノ四月中ハ何等纏メルコトナクシテ經過セリ、依テ本計劃ハ當分延期スルコトニシテ鯉漁業試験
 從事シ居リシニ四月下旬ニハ餌料トシテ好適ノ二寸内外ノひらごノ大漁アリ(大島ヨリ宮古ニ至ル海區)越へ
 六月初旬ヨリ本縣特有ノがつん其他餌料ノ大漁アリ殆ンド稀有ノ事實ナリト云フ宮古方面ニ於テモ寧ロ他地方
 餌料ノ販賣ヲ希望スル者サヘアルニ至リ本場又本島東海岸及名護方面ノ餌取業者ヨリ購入依頼ヲ受ケ之レガ謝
 ニ窮スル如キ有様トナレリ

次ニ參考ノタメ本縣産餌料ノ本年ノ價格ト鹿兒島産餌料價格ヲ對比スルニ次ノ如シ

鹿兒島 沖繩兩縣産餌料ノ比較

購 入 月 日	購 入 數 量	單 價	金 額	供 給 者
四 月 八 日	九 籠	六三三〇	五六〇〇〇	鹿兒島揚村
四 月 二 四 日	八 籠	五〇〇〇	四〇〇〇〇	全 天 達
五 月 八 日	一〇 籠	四五〇〇	四五〇〇〇	全 揚 村

六月四日	一回平均	九、二籠	五〇〇〇	五〇〇〇〇	全	上
六月十七日	六月二十一日	小鯨七七四斤	五八〇〇	四八〇〇〇	本縣名護上原	
六月二十八日	七月十一日	全 九〇〇斤	三〇〇	三三二〇〇	全	比嘉
七月十一日	一回平均	全 七八〇斤	二五〇	一八〇〇〇	全	上
		九四六斤	一五〇	一一四〇〇	全	大城
		八五〇斤	一九〇	二六〇〇〇		

蓄 養 試 驗

本縣産餌料ノ生産以上ノ如ク相等潤澤トナリ且又八月ニ入りテハ漁場ハ臺灣近海ニ轉ジ先島方面ノ漁船ニシテ臺灣根據ノモノナド現ハレ此際進ンテ鹿兒島産餌料ノ運搬蓄養ヲ行フハ極メテ不合理ト認メラレタレバ八月二十三日蘭南丸ノ殘餌約五〇斤ハ慶良間列島中ノ阿護浦ニ蓄養シ試験資料トセリ、其後八月ニ至リ縣費節減ノ命アリタルニ依リ比較的余裕アル本費目ヨリ相當削減シ更ニ翌年三月ニ入り第一回首里丸ニ依リテ運搬セシ餌料ニ對シ本費目中ヨリ補助支出セリ

然ル處三月中旬ニ至リ餌料ノ蓄養運搬並ニ配給ノ必要ヲ認メ本部村勝榮丸及濱元丸ノ二隻ニ對シ鹿兒島餌料ヲ一定條件ノ本ニ配給シ縣産餌料トノ比較試験ヲ行ハシメ本試験ハ一先ヅ之レニテ打切リトセリ

五 海洋横斷觀測